

# 新年を迎えて

しずない農業協同組合代表理事組合長 西村 和夫



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、御家族とともにご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃より当組合の事業運営に対し、ご協力とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

日本を取り巻く農業情勢においては、昨年9月に日米両国がTAG（日米物品貿易協定）の交渉開始に合意発表され、過去の経済連携協定で合意した関税から更に引き下げを求められる可能性があります。また、12月にはTPP11が発行になるなど、日本農業に大きな影響を及ぼすものであって今後

の情勢に注視しなければならぬと考えております。

昨年の日高地方は、2月の大雪による園芸ハウスなどの農業施設への倒壊被害や6月から7月にかけての長雨の影響による牧草収穫等の遅れ、さらに9月6日に発生した北海道胆振東部地震による「ブラックアウト」があり、例年になく自然災害に見舞われた一年でした。

昨年の農業作物の状況としまして、水稲は、作況指数が北海道で90、日高管内は94と不良でありました。低温長雨の影響で収穫量が減少したタンパク質の上昇が全道的にみられる状況のなか、静内地区はタンパク質も含め高品質な米を収穫することが出来ました。また町の産業振興を図るため、JA・観光協会・町商工会等で構成された町地酒づくり協議会を発足し、静内産米の酒造好適米を使用した町内外で親しまれるような日本酒の製造を目指し、メディアを通じて名称の募集を行うなど、販売に

向け準備を進めております。

青果では、2月の大雪によるハウス倒壊など多大な被害をうけましたが、関係団体、各方面からのボランティアの方々等による多くの御支援をいただき、早期に復旧することができました。また、春先の低温・日照不足により生育が遅れるなど栽培管理が難しい年となり、ミニトマト「太陽の瞳」の収量は昨年より減少したものの、1kg単価が高値で推移したこともあり、取扱金額も9億1600万円と昨年に引き続き9億円を突破することができ、青果全体では10億円を超える実績となりました。

また本年も2組の新規就農者の参加が予定されており、本年こそはミニトマト部会が目標として掲げる10億円を目指して参ります。

酪農については、北海道胆振東部地震による停電でミルクカーやバルクレーターの電源確保に困難を極め、搾乳や出荷に影響を与え、23トンの牛乳が廃棄せざるえない事態に見舞われました。

しかしながら、乳価は99円と高い水準で推移し販売金額は一昨年を超える取扱で推移しております。黒毛和牛については市場の平均

購買価格が去勢で87万6000円、メスで73万9000円であり、一昨年から大きな下落はなく、依然高値で推移されており、年間の販売金額でも3年連続の6億円の突破となる状況です。

基幹産業である軽種馬については、昨年の市場販売頭数及び販売金額が、343頭、31億6380万円と前年より7頭、4990万円の減少となりましたが、平均販売価格は4万円増加の922万4000円となりました。北海道市場では昨年より選抜市場として新設されたサマープレミアムセルも開催され、総売上も一昨年に引き続き100億円を超え、活気に満ち溢れる一年となりました。

また、昨年は1月31日に川崎競馬場で開催された「川崎記念」、11月4日に京都競馬場で開催された「JBCクラシック」を岡野牧場生産のケイティブレイブ号が優勝し、静内産馬が大きなレースで活躍する一年となりました。改めて生産牧場の皆様にお祝い申し上げます。

特に、10月に開催されたしずない農業まつりは台風の影響により、1日延期での開催となりましたが、